

御即位記念
第71回 正倉院展

令和元年10月26日(土)～11月14日(木)
全20日間、会期中無休

今年のみどころ…

元号が令和に変わってから初めての正倉院展。天皇陛下の御即位を記念し、聖武天皇の仏教への帰依を象徴するかのような品「七條刺納樹皮色袈裟」、「藤原公真跡屏風帳」など、正倉院宝物の成り立ちと伝来に関わる宝物や、宝庫を代表する宝物を中心に展示される。そのほかにも、「紺玉帯残欠」や「紅牙撥鏤尺」、「紫檀金鈿柄香炉」など、諸外国よりシルクロードを通じてもたらされた素材を使った色鮮やかな宝物が多くそろふ。

会期 2019年10月26日(土)～11月14日(木)
9:00～18:00 ※金・土・日曜、祝日は20:00まで
入館は閉館の30分前まで

主催会場 奈良国立博物館 東新館・西新館 MAP C-2
奈良市登大路町50 (奈良公園内)
ハローダイヤル:050-5542-8600
交通:近鉄奈良駅下車徒歩約15分
または、JR・近鉄奈良駅から市内循環バス外回り
「氷室神社・国立博物館」下車すぐ
<https://www.narahaku.go.jp/>

観覧料金	当日	前売/団体	オータムレイト※1
一般	1,100円	1,000円	800円
高校・大学生	700円	600円	500円
小・中学生	400円	300円	200円
親子ペア※2	—	1,100円	—

※1オータムレイト…閉館の1時間30分前以降に使用できる当日券。
(販売は同館当日券売場のみ。閉館の2時間30分前からの販売)
※2親子ペア…一般1人+小・中学生1人がセット。前売のみ販売で、
主要スレイガイド、コンビニエンスストア(一部)での販売

音声ガイド 音声ガイドでもっと楽しむ!
・一般プログラム
・こどもプログラム
・外国語プログラム(英・中・韓)各550円

展示宝物 41件
(北倉14件、中倉8件、南倉17件、
聖語蔵2件/うち初出陳4件)

特別協力:読売新聞社

主な出陳品
紹介

ケヤキの厨子

赤漆文櫨木御厨子

◆せきしつぶんかんぼくのおんすし
観音開きの扉が付いた、ケヤキ材製の戸棚。表面は赤色の色料の上に透明な漆を塗り重ねる赤漆技法で装飾されている。聖武天皇・光明皇后夫妻が特に大切にしていたであろう品に加え、帯や刀子といった装身具、双六の駒や念珠など、身近に置かれた比較的小さな品々が多く納められていたとされる。



天武天皇から持統、文武、元正、聖武、孝謙と歴代の天皇に大事に相伝されたんだよ



第1扇

鳥毛貼りの屏風

鳥毛立女屏風 ◆とりげりつじょのびょうぶ

『国家珍宝帳』に記載される屏風で、現在も全6扇が残る。どれも髪を結い上げたふくよかな女性を樹下に1人配する構図で、盛唐の風俗を反映した豊満な「天平美人」として名高い本屏風が揃って出陳されるのは20年ぶり。



ラピスラズリ(青金石)は聖なる石として崇拝されていたそうだからパワーも強そう!

玉飾りの革帯

紺玉帯残欠 ◆こんぎょくのおびざんけつ

紺玉=ラピスラズリで飾られた革帯。奈良時代の衣服に関する規定には玉帯(※)に関する記述はないが、中国・唐では最高位の官人にのみ金玉帯が許されていたため、国内でも皇族あるいは高位の貴族の所用品であったと思われる。

※玉帯…玉の飾りをつけた革帯のこと

表は1寸(約3cm)ごとの界線で10区に分かれていて唐花文や鳳凰などが表されているよ。裏には界線はなく、なんと側面にも小花文。仕事が細かいねえ

染め象牙のものさし

紅牙撥鏤尺 ◆こうげぼちるのしゃく

象牙を染め、表面を浅く彫って文様を白く彫り表す撥鏤技法で装飾された華麗なものさし。ものさしと考えられるものの、実用品ではなく、儀礼用に制作されたものとみられる。



表

裏

刺縫いの七条袈裟

◆しちじょうしのうじゅひしよくのけさ

聖武天皇は仏道に帰依し、天平感宝元年(749)頃に出家しているのので、本品のような袈裟を所持し着用した可能性が想起される。赤・青・茶などの平絹を不規則な形に裁ち、刺縫いの技法で繋ぎ合わせた長方形の裂を7枚横に継ぎ、裏地を当て1枚に仕立てている。

「袈裟」は僧侶がまとう衣服で、「濁った色」を意味するサンスクリット語の音写なんだって





金銀飾りの琴

金銀平文琴 ◆きんぎんひょうもんきん

盛唐期の高度な工芸技術がうかがい知れるキリ材製の琴。文様の形に切った金属板を漆で塗りこめた後に文様部分を研ぎ出して表す平文の技法で全体に装飾が施されている。表面は金と銀の平文、裏面は銀平文で、遊樂に興じる人物や鳳凰、獅子などが表されている。

表面の花菱文で区切られた部分には、草花や鳥の他に3人の高士（高潔な人）が！



部分



儀式用のくつ

衲御礼履 ◆のうのこらいり

爪先が反り上がり、先端が2つに分かれている浅い靴。表面は赤く染めた牛革、内面には鹿革の白革が用いられている。縫い目部分は金線があしらわれ、花形の飾りには真珠、色ガラス、水晶などが使用された豪華な宝物だ。

屏風の献納目録

天平宝字二年十月一日献物帳
(藤原公真跡屏風帳)

◆てんびょうほうじにねんじゅうがつついたちけんもつちょう
(ふじわらこうしんせきびょうぶちょう)

光明皇后による4度の東大寺大仏への献物のうち、天宝字2年(758)10月1日に行われた献納に係る目録。光明皇后が亡父・藤原不比等の真跡(※)という、屏風12扇を東大寺に献納したという内容が記されている。

※真跡…その人が書いたものであると確実に認められる筆跡、直筆のこと



献納されたという屏風は、現存していないんだって。残念！



献物用の台
粉地彩絵八角几

◆ふんじさいえのはっかくき

ヒノキ材製の献物用の台。仏前に供物を進ずる際に用いる台で、東大寺の法要や、天皇・^{ていしん}廷臣からの献物に用いられたとみられる。表面全体に彩色が施され、天板上面の緑、裏面の萌黄のほか、赤・青・緑・紫系の^{うんげんさいしよく}葎縹彩色で表された側面の鮮やかな花文が見事。

葎縹彩色とは、同じ系統の色を濃色から淡色へ段階的に配列する彩色法(グラデーション)のことだよ



部分



冠の残片

礼服御冠残欠

◆らいふくおんかんむりざんけつ

複数の冠の残片で、主要なものは天平勝宝4年(752)の大仏開眼会で聖武天皇・光明皇后が着用した冠や孝謙天皇所用の冠に関わるものとみられる。鳳凰・植物などを象った金具や、瑠璃や珊瑚、国内産の真珠など多様な素材からなる。

紺玉帯の箱

螺鈿箱 ◆らでんのはこ

紺玉帯残欠(P2)を納めた円形の箱。黒の漆地に、ヤコウガイの白い螺鈿や下に青や赤の彩色を施した水晶を用いて、唐花文様や雲、鳥を表した豪華な作りとなっている。蓋表中央の花弁には、「平脱」と呼ばれる技法が用いられており、宝物中で平脱と螺鈿を併用する例は本品のみ。



華やかな天平文化が目に見えようだね

身



炉側面

柄付きの香炉

紫檀金釦柄香炉

◆したんきんでんのえこうろ

香を焼べる炉に持ち手を取り付けた柄香炉で、仏前や行道で僧が手に執り供香するのに用いる。金属製のものが多い中、主要部分をシタン製とする珍しいものだ。獅子形の鈕(つまみ)や鎖(おもし)は精巧で、水晶、ガラスなどをふんだんに用い贅を尽くした煌びやかな宝物だ。

香炉の花形台座から柄の端まで“豪華”に尽きるね。柄の金象嵌、赤い錦もチェック



「錢」は中国固有の重量単位だから、中国製だとみられるんだね



花形の脚付き皿

金銀花盤 ◆きんぎんのかばん

六花形の銀製の皿で、宝庫に伝来した盤の中では最も大きい。中央に花状の角を持つ鹿、外周に3つの花で構成する花文を表す。花状の角を持つ鹿は中国・唐代の工芸品にしばしば登場するモチーフ。裏面の刻銘にある「錢」の字の用法からも、この品が中国製であることがわかる。



盤面

縁にはいろいろな色のガラス玉などの飾り

儀式用の箒

子日目利箒

◆ねのひのめときほうき

中国古来の宮中儀礼で用いられる箒。皇后自らが箒で蚕室を掃き清めて蚕神を祀り、その年の養蚕の成功を祈願するという儀式で、奈良時代の孝謙天皇の代に日本にも導入された。元は玉で飾られていたようで、今も先端に数箇のガラス玉が残る。



鏡背文様の下絵

鏡背文様の下絵・人物戯画ほか

続修正倉院古文書別集 第四十八巻

◆ぞくしゅうしょうそういんこもんじよべっしゅう

様々な絵や文書等を貼り継いで1巻に仕立てたもの。青龍、朱雀、玄武の三神が描かれたものは、孝謙太上天皇の命で作られることとなった直径1尺の鏡の下絵とみられる。描かれた戯画や文書はもちろん、写経所の帳簿として用いられた紙背も興味深い。



紙背とは紙の裏のこと。紙は貴重品だったから裏返して再利用したんだね

正倉院とは…

奈良時代の官庁や大寺には、税で徴収された米や布などを納める正倉が設けられており、この正倉がいくつも集まった区画が正倉院と呼ばれるようになった。しかし、年月とともに東大寺の正倉院内の正倉1棟を除き、他の正倉院はすべてなくなってしまった。現在では、正倉院といえばこの1棟を指す。鉄筋コンクリート造の西宝庫、東宝庫に分け、聖武天皇の遺愛品及び東大寺伝来の宝物、文書類などが収納されている。

〒奈良市雑司町129 MAP C-1

☎0742-26-2811 (宮内庁正倉院事務所)

🕒月～金曜 (祝日・年末年始は除く) の毎日10:00～15:00

🆓無料 (申込手続き不要) 📵なし

※正倉院展会期中無休、10:00～16:00

(土日祝も公開し、通常より公開時間を1時間延長)

※公開は「正倉」外構のみ



ミュージアムショップおすすめグッズ

杉ファイル 1,296円

おでかけバッグ 各1,944円

コースター (6枚セット) 324円

巾着 各1,296円

スマホケース 各1,512円

マスクングテープ 各540円

● Museum shop ☎0742-26-3868

地下回廊無料ゾーンと西新館特設売場で、宝物がデザインされたオリジナルの正倉院文様グッズを販売。

※掲載内容は2019年9月4日現在のものです。催事・価格変更の際はご了承ください